

# 共同物流の潮流

>1<



小沢勇夫氏  
(日本能率協会  
コンサルティン  
グ)

送先特性に類似性があれば、共同化の条件を整えやすいという特徴があり、従来の共同物流の主流となっている。新たな情報システムの構築、取引制度の変更などを伴うことになるため、各社間の調整を含め、実施の難易度は高いといえる。



企業にとって、物流はまた企業は、ほぼ例外な必要不可欠なプロセス

めには限界があり、波動性の吸収という高いハードルもクリアできない。

以上のような背景で共同物流がクローズアップされているが、物流の共同化といっても、さまざまに存在する。

この場合、取引上の制約条件などを考慮する必要があるため、荷主企業の参画は比較的容易である。逆に物流事業者は、インフラの整備、質の高いサービスの継続が求められるため、事業運営の向上が必要となっている。

だ。九十年代以降、多くの荷主企業は物流をアウトソーシングしながらコストダウンを図ってきた。

共同配送を企画すると、営業部門からの反対が見合せざるを得ないケースが多く見受けられた。これもある程度払しょくされつつある。

一方、取引上の関係という足かせのなかでの活動となるため、サプライチェーンでの主導権を握る。逆に物流事業者は、インフラの整備、質の高いサービスの継続が求められるため、事業運営の向上が必要となっている。

しかし、一昨年後半から、この物流分野の再評価・再構築をしようという動きが加速している。

また、共同物流は、主体となる企業の組み合わせによって、大きく三つに区分

「誰がどのように発揮しているか」として、企画倒れとなる可能性も高い。

以上のように、共同物流にも様々なパターンが存在する。次回以降はパターンごとにそれぞれの成立条件や成功要因の考察を行っていく。

企業の置かれた経済環境の悪化に伴い、外部流出コストである「物流」のコストダウンを徹底して目指す動きが始まっている。

さらに共同物流の追い風となっているのが、CO<sub>2</sub>排出量削減の動きである。平成十七年度にはエネルギー合理化に関する法律(省エネ法)が改正され、平成十八年より荷主と輸送事業者のエネルギー使用が法的に規制されることとなった。

また、昨年九月には鳩山首相が「平成三十二年までに温暖化ガスを平成二年比で二十五%削減す

荷扱い特性や輸送・配

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このような流れのなかで、次の一手として注目されているのが共同物流だ。自社だけの量ま

本格的にこのパターンを志向する場合、物流インフラの大規模な改廃、特化した高い専門能力を

小沢 勇夫氏(おざわ・いさお) 昭和34年生まれ。58年早大卒。平成元年日本能率協会コンサルティンク入社、5年チーフ・コンサルタン

量的な拡大が望めない状況下で物流のコストダウンを達成するために、まず自社の物流を出来るだけシンプルにして、量

のまとめ効果を図ることになる。例えば在庫拠点集約とクロスドック化、企業グループ間での物流統合などである。

共同化である。この場合には荷量の集約による量の拡大のメリットを狙う。共同輸配送、共同保管、共同受発注、ユニット標準化などの連携により、規模統合による効率化を追求する。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

## いまなぜ共同物流なのか

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

このなかで特徴的なことは、自社の物量が伸びない、または減少することを前提として、いかに効率的な物流システムを再構築するか、ということに各社が取り組んでいる点にある。

共同集荷、共配センター運営など、業種業態に